

NHK 杯佐賀県高等学校野球大会の私立の成績は 公立校より優れている

山 津 幸 司

Private schools perform better than public schools in the NHK Cup Saga
Prefecture High School Baseball Tournament

Koji YAMATSU

要 旨

高校野球において私立高等学校の躍進が目覚ましい。2023年8月に開催された全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園大会）に出場した49校の8割超（40校）が私立であり、3回戦以降に進んだ公立校は皆無であった。また、平成以降の春と夏の甲子園全国大会優勝校の9割超が私立であることなどから、高校野球における私立の優勢は明らかである。佐賀県においても夏の甲子園予選、春の甲子園予選（秋季の九州地区高等学校野球佐賀大会）では最近15年程度の期間では私学の優勢が認められつつある。夏と春の甲子園全国大会につながる二つの公式戦とは別に、夏の甲子園佐賀県予選の約1.5か月前にNHK杯佐賀県高等学校野球大会（NHK杯）が開催される。NHK杯での優勝が直接甲子園大会につながるわけではないが、NHK杯での上位進出は夏の甲子園佐賀県予選のシード候補の条件のひとつとされるため、夏の甲子園大会を目指す学校にとっては重要な大会といえる。このNHK杯において公立と私立のどちらの戦績が優勢かは不明である。そこで、本研究の目的はNHK杯における戦績は公立と私立のどちらが優れているのかを明らかにすることであった。研究対象大会は2012年から2023年のNHK杯全11大会であり、42校（公立36校、私立6校）が研究対象校であった。 χ^2 検定の結果、私立の優勝率は50.0%（公立13.9%）、準優勝率は66.7%（公立13.9%）、準優勝以上への進出率は66.7%（公立22.2%）、ベスト4以上への進出率は100%（公立47.2%）、優勝複数回進出率は33.3%（公立2.8%）など公立に比べて有意に高かった。ロジスティック回帰分析の結果からも、NHK杯における私立の優勢が示された。以上のことから、佐賀県における夏の甲子園大会の前哨戦ともいえるNHK杯でも私立優勢の可能性が示された。本研究の方法論にはいくつかの課題が残されているため、本当に私立が優勢なのか、私立優勢の理由は何かを明らかにしていく必要がある。

【キーワード】 高校野球, 硬式野球, 運動部活動, ベースボール, 格差

I. 研究の背景と目的

高校スポーツにおけるメジャー種目では一般的に私立が運営する学校部活動の成績が優勢である。私立優勢の傾向は高校野球でも例外ではない。最近開催された第105回（2023年）の全国高等学校野球選手権大会（以下、夏の甲子園大会）では、出場した49校のうち81.6%（40校）が私立であった。第105回大会に出場した公立9校のうち1回戦に勝利できたのは3校（鳥栖工業、徳島商業、市立和歌山）のみであり、2回戦で勝利した公立校は皆無であった。すなわち3回戦以降のベスト8進出は私立のみであり、夏の甲子園大会における実力面での私立の優勢は明らかである。さらに平成以降の甲子園優勝校は夏が34大会中91.2%（31校）、春の選抜高校野球大会（以下、春の甲子園大会）では34大会中94.1%（32校）が私立であった（阪神甲子園球場ホームページ，2023年9月20日現在）。以上のことから、高校野球における私立学校の優勢は一般的な傾向といえるだろう。

佐賀県における高校野球でも私立が優勢なのだろうか。佐賀県の公立高等学校硬式野球部では、夏の甲子園大会において1994年の佐賀商業、2007年の佐賀北高校の全国優勝の実績がある。夏の甲子園大会における公立二校の活躍により、佐賀県の高校野球は公立校が善戦しているとの印象がもたれている。実際に、夏の甲子園予選佐賀大会の2022年までの全大会を分析した結果では私立が有意差をもって優勢とは言えない（優勝率は私立66.7%，公立33.3%， $p=0.117$ ）ことが示されている（山津，2023a）。しかし、夏の甲子園予選佐賀大会の全45回大会を3期に分けて解析すると、最初と中間の15大会では私立と公立の優勝率に有意差は認められないが、最も直近の15大会では私立の優勝率（私立66.7%，公立13.5%， $p=0.003$ ）は有意に高く、公立に対する私立の優勝可能性は12.8倍であった（山津，2023a）。2007年以降の秋季の九州地区高等学校野球佐賀大会を分析した場合も私立の優勢は明らかであり（山津，2023b）、夏と春の甲子園大会の出場につながる公式戦においては佐賀県でも少なくとも最近15年程度の期間では明らかに私立優勢といえる。

一方、高校野球の公式戦にはNHK杯佐賀県高等学校野球大会（以下、NHK杯）がある。NHK杯は約1.5か月後にはじまる夏の甲子園予選佐賀大会のシード校を決める戦いでもある。NHK杯の選抜方法は少し特殊である。夏の甲子園大会佐賀県予選では全出場校による一度のトーナメント戦で優勝校を決めるのとは対照的に、NHK杯では県内5地区（三神、佐賀、唐松、杵藤、伊西）の一次予選とその後の二次決勝トーナメントで優勝校が決まる形式である。NHK杯での上位進出は夏の甲子園大会佐賀県予選のシード選出の条件のひとつであることから、NHK杯は大事な大会といえる。

夏と春の甲子園大会出場につながる甲子園予選佐賀大会では近年私立の優勢が顕著となりつつあるが、そこでの優勝が直接甲子園大会への出場につながるわけではないNHK杯において公立と私立のどちらが優勢かは不明である。そこで、本研究の目的は、NHK杯の成績は公立と私立のどちらが優れているのかを明らかにすることであった。

II. 研究方法

2-1. 研究対象

研究対象校は、佐賀県高等学校野球連盟（<http://kouyaren-saga.jp/>）に2012年度から2023年度まで加盟していた42校（公立36校、私立6校）であった。分析対象となった全42の高等学校の名称や運営主体の情報を巻末（付録1）に示した。分析対象大会は、NHK杯佐賀県高等学校野球大会における2012年（第59回大会）から2023年（第70回大会）までの11大会とした。2020年の大会は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止となった。分析対象大会をこの11大会とした理由は、NHK杯の出場校や試合結果がインターネット上（高校野球ドットコム，<https://www.hb-nippon.com/>）に完全にデータベース化されていたから

である。NHK 杯は、春の県大会の優勝・準優勝の2校と5地区の予選を勝ち抜いた16チーム（年度により17チームの場合あり）のトーナメント戦である。

佐賀県の公立高等学校では数回の統合が実施された。そのため、2012年から2023年に大会出場した全高等学校を分析対象とし、統合前の大会結果は統合前の学校の成績として、統合後の結果は統合後の学校の成績として分析を行った。分析対象期間中の公立校の統合は4回であり、2018年に白石と杵島商業（統合後は白石高校として存続）、嬉野と塩田工業（統合後は嬉野高校として存続）、鹿島と鹿島実業（統合後は鹿島高校として存続）の8校が4校となり、2019年には伊万里農林と伊万里商業（統合後は伊万里実業として存続）の2校が1校に統合された。分析対象期間中のNHK 杯への出場参加チーム数は巻末（付録2）に示した通りである。NHK 杯では様々な理由により複数の高等学校が合同チームで参加する場合がある。合同チームとして参加する理由は、学校統合により連名で参加する場合等である。分析対象期間中の合同チームでの参加回数は計2回4校であった。具体的には、2018年の嬉野と塩田工業、2019年の嬉野と塩田工業、であった。

2-2. 分析方法

分析に用いたのはカテゴリー化された変数であった。すなわち、「優勝」は各大会の決勝戦で勝利した学校、「準優勝」は決勝戦で負けた学校、「ベスト4」は準決勝戦で負けた2校、「ベスト8」は準々決勝戦で負けた4校として集計を行った。また、「準優勝以上」は決勝戦に進出した2校、「ベスト4以上」は準決勝戦に進出した4校、「ベスト8以上」は準々決勝戦に進出した8校、と定義した。また、上記の大会上位進出を分析対象期間中に2回以上、すなわち「複数回進出」したかどうかを分析の観点とした。HHK 杯の二次決勝トーナメントに出場した回数のみ連続変数を用いt検定で比較した。用いた統計解析は χ^2 検定、対応のないt検定とロジスティック回帰分析であり、有意水準は5%未満、有意傾向は10%未満とした。

Ⅲ. 結果

1) NHK 杯佐賀県高等学校野球大会の成績の比較（表1）

分析対象となった11大会の試合成績の集計と χ^2 検定の結果は次の通りであった。

表1に示してはながいが、二次決勝トーナメントへの出場回数は最多が佐賀商業（公立）、唐津商業（公立）、龍谷（私立）の各10回、次いで佐賀北（公立）の9回、鹿島（公立）と早稲田佐賀（私立）の各8回、伊万里（公立）、神埼清明（公立）、鳥栖（公立）、佐賀学園（私立）の各7回、有田工業（公立）、多久（公立）、敬徳（私立）、北陵（私立）の各6回、佐賀工業（公立）、武雄（公立）、鹿島実業（公立）、杵島商業（公立）、東明館（私立）の各5回、唐津西（公立）、鳥栖商業（公立）、伊万里農林（公立）、塩田工業（公立）の各4回、嬉野（公立）、鳥栖工業（公立）、厳木（公立）、神埼（公立）、佐賀西（公立）の各3回、白石（公立）、唐津工業（公立）、小城（公立）、高志館（公立）、唐津東（公立）の各2回、三養基（公立）、太良（公立）、伊万里実業（公立）、伊万里商業（公立）、佐賀東（公立）の各1回であった。出場回数がなかったのは、致遠館（公立）、唐津南（公立）、佐賀農業（公立）、唐津青翔（公立）の4校であった。出場回数の平均をt検定にて比較した結果、私立の平均出場回数は 7.0 ± 1.8 回で公立の 3.8 ± 2.9 回より有意に高かった（ $p=0.011$ ）。

優勝校は公立が5校、私立が3校であった。優勝回数は最多が唐津商業（公立）、佐賀学園（私立）、龍谷（私立）の各2回、続いて佐賀北（公立）、佐賀商業（公立）、鹿島（公立）、鳥栖（公立）、北陵（私立）の各1回であった。優勝成績の割合（優勝率）を χ^2 検定にて分析した結果、私立の優勝率は50.0%で

公立の13.9%より有意に高率であった (P=0.037)。

準優勝校は公立が5校、私立が4校であった。準優勝回数は最多が佐賀商業 (公立)、伊万里農林 (公立) の各2回、佐賀北 (公立)、唐津商業 (公立)、有田工業 (公立)、東明館 (私立)、佐賀学園 (私立)、龍谷 (私立)、北陵 (私立) の各1回であった。準優勝成績の割合 (準優勝率) を分析した結果、私立の準優勝率が66.7%で公立の13.9%より有意に高率であった (P=0.0035)。

ベスト4進出は公立が13校、私立が4校であった。ベスト4進出回数は最多が龍谷 (私立) の5回、次いで鹿島実業 (公立)、早稲田佐賀 (私立) の各2回、佐賀北 (公立)、佐賀商業 (公立)、唐津商業 (公立)、伊万里 (公立)、神埼清明 (公立)、佐賀工業 (公立)、嬉野 (公立)、唐津工業 (公立)、佐賀西 (公立)、佐賀東 (公立)、伊万里農林 (公立)、塩田工業 (公立)、東明館 (私立)、敬徳 (私立) の各1回であった。ベスト4進出の割合 (ベスト4進出率) を分析した結果、私立のベスト4進出率が66.7%、公立が36.1%で有意差は認められなかった (P=0.158)。

ベスト8進出は公立が20校、私立が5校であった。ベスト8進出回数は最多が佐賀北 (公立) の5回であり、次いで神埼清明 (公立) の4回、唐津商業 (公立)、伊万里 (公立)、鹿島実業 (公立) の各3回、

表1. NHK杯佐賀県高等学校野球大会 (2012~2023年度) の公立と私立の成績の比較

	公立校 (36校)	私立校 (6校)	χ^2 検定
優勝率 (%)	13.9	50.0	0.0370*
準優勝率 (%)	13.9	66.7	0.0035*
ベスト4進出率 (%)	36.1	66.7	0.1580
ベスト8進出率 (%)	55.6	83.3	0.1994
準優勝以上進出率 (%)	22.2	66.7	0.0257*
ベスト4以上進出率 (%)	47.2	100.0	0.0162*
ベスト8以上進出率 (%)	69.4	100.0	0.1150
優勝複数回進出率 (%)	2.8	33.3	0.0071*
準優勝複数回進出率 (%)	5.6	0.0	0.5541
ベスト4複数回進出率 (%)	2.8	33.3	0.0071*
ベスト8複数回進出率 (%)	30.6	0.0	0.1150
準優勝以上複数回進出率 (%)	8.3	33.3	0.0800#
ベスト4以上複数回進出率 (%)	11.1	50.0	0.0180*
ベスト8以上複数回進出率 (%)	33.3	50.0	0.4302

* : P < 0.05 # : P < 0.10

佐賀商業（公立）、有田工業（公立）、佐賀工業（公立）、多久（公立）、神埼（公立）、鹿島（公立）の各2回、三養基（公立）、厳木（公立）、鳥栖商業（公立）、太良（公立）、佐賀西（公立）、鳥栖（公立）、唐津東（公立）、杵島商業（公立）、塩田工業（公立）、東明館（私立）、佐賀学園（私立）、早稲田佐賀（私立）、龍谷（私立）、敬徳（私立）の各1回であった。ベスト8進出の割合（ベスト8進出率）を分析した結果、私立のベスト8進出率が83.3%、公立が55.6%であり、これらに有意差は認められなかった（ $P=0.1994$ ）。

表1の二段目以降に、分析対象の大会で準優勝以上に進出した割合（準優勝以上進出率）、ベスト4以上に進出した割合（ベスト4以上進出率）、ベスト8以上に進出した割合（ベスト8以上進出率）、同一校が2大会以上優勝した割合（優勝複数回進出率）、同一校が2大会以上準優勝した割合（準優勝複数回進出率）、ベスト4に2大会以上進出した割合（ベスト4複数回進出率）、ベスト8に2大会以上進出した割合（ベスト8複数回進出率）、同一校が準優勝以上の成績を2大会以上獲得した割合（準優勝以上複数回進出率）、同一校がベスト4以上の進出を2大会以上獲得した割合（ベスト4以上複数回進出率）、同一校がベスト8以上の進出を2大会以上獲得した割合（ベスト8以上複数回進出率）を分析した結果を示している。その結果、私立の準優勝以上進出率（私立66.7%、公立22.2%）、ベスト4以上進出率（私立100%、公立47.2%）、優勝複数回進出率（私立33.3%、公立2.8%）、ベスト4複数回進出率（私立33.3%、公立2.8%）、ベスト4以上複数回進出率（私立50.0%、公立11.1%）は公立校より高く有意差が認められた（ $P<0.05$ ）。

2) ロジスティック回帰分析の結果（表2）

ロジスティック回帰分析の結果、準優勝（オッズ比12.4, 95%信頼区間1.78-86.5, $P=0.0111$ ）、準優勝以上への進出（オッズ比7.00, 95%信頼区間1.08-45.4, $P=0.0414$ ）、優勝複数回進出（オッズ比17.5, 95%信頼区間1.28-238.9, $P=0.0319$ ）、ベスト4複数回進出（オッズ比17.5, 95%信頼区間1.28-238.9, $P=0.0319$ ）、ベスト4以上複数回進出（オッズ比8.00, 95%信頼区間1.19-53.9, $P=0.0327$ ）で有意な関連性が認められた。すなわち、私立の準優勝進出、準優勝以上への進出、優勝複数回進出、ベスト4複数回進出、ベスト4以上複数回進出は私立の方が明らかに公立校より高いことを意味している。また、優勝で有意傾向が認められ、いずれも私立の優勝可能性が公立に比べて高い傾向が示された（ $P<0.10$ ）。

IV. 考察

本研究では、NHK杯の最近11大会の成績が公立と私立で異なるのかを検証した。その結果、表1に示したように、私立の優勝率、準優勝率、準優勝以上進出率、ベスト4以上進出率、優勝複数回進出率、ベスト4複数回進出率、ベスト4以上複数回進出率がいずれも有意に高く、NHK杯においても私立優勢の可能性が示された。表2に示したロジスティック回帰分析の結果からは、私立が準優勝となる可能性は公立に対し12.4倍、準優勝以上進出の可能性は7.0倍、優勝複数回進出の可能性は17.5倍、ベスト4複数回進出の可能性は17.5倍、ベスト4以上複数回進出の可能性は8.0倍高いことが明らかとなった。また、有意傾向ではあったものの、私立の優勝可能性は6.2倍高い傾向にあった。以上の結果をまとめると、NHK杯にて複数回優勝、準優勝以上、ベスト4以上進出、ベスト4以上複数回進出する可能性は私立が明らかに高いことがわかる。今回のNHK杯（2012～2023年）における私立優勝のオッズ比は6.20（95%信頼区間0.97-39.8, $P=0.0543$ ）であるが、先行研究（山津, 投稿中）によるおおむね同期間（2007～2022年）の秋季の九州地区高等学校野球佐賀大会の私立優勝のオッズ比6.40（95%信頼区間1.00-41.0, $P=0.0501$ ）と同程度であった。しかし、別の先行研究（山津, 2023）によるおおむね同期間（2008～2022年）の夏の甲子園

表2. NHK 杯佐賀県高等学校野球大会（2012～2023年度）の公立と私立の成績に関する分析結果

	オッズ比 [§]	95%信頼区間	P 値
優勝	6.20	0.97-39.8	0.0543 [#]
準優勝	12.4	1.78-86.5	0.0111 [*]
ベスト4 進出	3.54	0.57-22.0	0.1756
ベスト8 進出	4.00	0.42-37.8	0.2263
準優勝以上	7.00	1.08-45.4	0.0414 [*]
ベスト4 以上進出	私立のベスト4 以上進出実績は100%のため算出できず		
ベスト8 以上進出	私立のベスト8 以上進出実績は100%のため算出できず		
優勝複数回進出	17.5	1.28-238.9	0.0319 [*]
準優勝複数回進出	私立の準優勝複数回進出実績は0%のため算出できず		
ベスト4 複数回進出	17.5	1.28-238.9	0.0319 [*]
ベスト8 複数回進出	私立のベスト8 複数回進出実績は0%のため算出できず		
準優勝以上複数回進出	5.50	0.70-43.5	0.1062
ベスト4 以上複数回進出	8.00	1.19-53.9	0.0327 [*]
ベスト8 以上複数回進出	2.00	0.35-11.4	0.4360

§：公立高等学校を参照とした場合のオッズ比 *；P<0.05 #；P<0.10

予選佐賀大会の私立優勝のオッズ比12.8（95%信頼区間1.84-89.2, P=0.010）と比べるとNHK杯の私立優勝オッズ比は相対的に低かった。NHK杯と秋季の九州地区高等学校野球佐賀大会の私立優勝可能性が同程度である理由や、NHK杯と夏の甲子園予選佐賀大会で私立の優勝可能性に大きな差が認められた真の理由は不明である。今後、佐賀県高校野球における私立の優勢度が春と夏の甲子園予選、NHK杯も含めた公式戦で真に異なるのか、そうであればその理由は何かを明らかにできるよう研究を続けていく必要がある。

本研究は先行研究で明らかとなった高校野球における春と夏の甲子園予選佐賀大会で私立の成績が公立より優勢であるとの知見を、NHK杯でも私立が優勢であることを証明した初めての試みである。本研究の方法論の妥当性と信頼性をさらに高め、今後も結果の裏付けを強固にしていく努力が望まれる。一方で、本研究には以下のような研究上の限界を有しており、その解釈には慎重になるべきである。

第一に、本研究成果の一般化には慎重さを要する。本研究では2012年から2023年の11大会のみを分析対象とした。大会参加チーム数等の確実な情報が残されている大会のみを分析対象としたからではあるが、2011年以前の大会結果の傾向が本研究の結果と同様とは限らない。そのため、分析対象とする大会数を拡

大して追加の検討を行うべきである。

第二に、公立校における学校統合後のデータの取り扱いを十分に検討する必要がある。先行研究（山津，2022；山津，2023a）では統合前の公立校の成績は統合後に存続した学校の成績に繰り入れて分析を行ったが、別の先行研究（山津，2023b）では対象期間中に大会参加実績のある学校は統合後も統合前の成績を有する状態で独立に分析に用いている。例えば2018年に鹿島と鹿島実業が統合され鹿島高校として存続したが、鹿島実業として出場した結果は鹿島実業として分析に用い、統合後に鹿島実業としての参加実績がない年度の大会はデータなしとして取り扱った。このように取り扱った理由は、鹿島と鹿島実業は両校共に相応の実績を持つ2校の統合であったため、鹿島実業の戦績を統合後の鹿島に繰り入れると公立校の実力が過小評価されてしまう危険性があると考えたからである。鹿島と鹿島実業以外でも、比較的上位進出実績のある公立校が複数統合されていたため、この扱いは公立校の実力を過小評価しないためには不可欠であったと考えている。一方で、この取り扱いによる偏り（バイアス）は公立校に有利に働くと思われるため、今回の私立が優勢との結果を覆すものではないと推察している。

最後に、高校入試における野球の特待制度や推薦制度についても交絡因子として検討していく必要がある。佐賀県の公立校における野球の推薦入試は2021年度時点で26校が導入し、4人から6人の新入生を獲得できるようになっている（佐賀県教育委員会，2021）。一方、私立では野球の実力を考慮し入学を許可した特待生を獲得していると思われるが、令和3年度に公表された入試要項で野球の実力・実績に応じた特待生の選抜の有無を明示していた私立高等学校は早稲田佐賀と敬徳の2校のみであった。特待生の影響は今後の重要な研究課題である。さらに交絡因子として検討すべき点として、私立の優勢が単に多くの優れた選手を特待生として獲得しているからなのか、入学後も優れた練習環境でその能力を伸ばしているからなのか、優れた指導者の影響か等明らかにすべき課題も多く残されている。

V. 結論

本研究では、夏の甲子園佐賀県予選の前哨戦にあたる NHK 杯佐賀県高等学校野球大会の成績が公立と私立で異なるのかを検証した。その結果、私立の優勝複数回進出、準優勝進出、準優勝以上進出などの可能性は公立校に比べて有意に高いことが示されたことから、NHK 杯佐賀県高等学校野球大会においても私立優勢の可能性が示された。

VI. 引用文献

- 阪神甲子園球場，高校野球情報，<https://www.hanshin.co.jp/koshien/highschool/>（2023年9月27日時点でアクセス可能）
佐賀県高等学校野球連盟，<http://kouyaren-saga.jp/>（2023年9月27日時点でアクセス可能）
高校野球ドットコム，<https://www.hb-nippon.com/>（2023年9月27日時点でアクセス可能）
佐賀県教育委員会，2021，令和4年度佐賀県立高等学校入学者選抜実施要項
佐賀県教育委員会，2021，令和4年度佐賀県立高等学校入学者選抜 特別選抜の指定校について。
山津幸司，2022，高等学校の運営主体が全国高等学校野球選手権大会の予選成績に及ぼす影響：佐賀県における私立の高等学校は公立校より夏の甲子園大会に出場しやすいのか？，九州地区国立大学教育系・文系研究論文集，9巻1号，1-13
山津幸司，2023a，全国高等学校野球選手権大会の佐賀県予選成績に及ぼす影響：私立の高等学校の予選成績は公立校より優れているのか？，九州地区国立大学教育系・文系研究論文集，9巻2号，1-18
山津幸司，（2023b），秋季の九州地区高等学校野球佐賀大会の私立の成績は公立より優れているのか？，九州地区国立大学教育系・文系研究論文集，10巻1号

付録 1

No.	高校名	運営主体	地区
1	伊万里	公立	伊西
2	有田工	公立	伊西
3	伊万里実 (2019年に伊万里農林、伊万里商業と統合)	公立	伊西
4	唐津商	公立	唐松
5	唐津西	公立	唐松
6	唐津工	公立	唐松
7	小城	公立	唐松
8	多久	公立	唐松
9	巖木	公立	唐松
10	唐津南	公立	唐松
11	唐津東	公立	唐松
12	唐津青翔	公立	唐松
13	白石 (2018年に杵島商業と統合)	公立	杵藤
14	嬉野 (2018年に塩田工業と統合)	公立	杵藤
15	武雄 (2007年に武雄青陵と統合)	公立	杵藤
16	鹿島 (2018年に鹿島実業と統合)	公立	杵藤
17	太良	公立	杵藤
18	佐賀農	公立	杵藤
19	佐賀北	公立	佐賀
20	佐賀商業	公立	佐賀
21	佐賀工	公立	佐賀
22	致遠館	公立	佐賀
23	高志館	公立	佐賀
24	佐賀西	公立	佐賀
25	佐賀東	公立	佐賀
26	神埼清明	公立	三神
27	三養基	公立	三神
28	鳥栖工	公立	三神
29	鳥栖商	公立	三神
30	神埼	公立	三神
31	鳥栖	公立	三神
32	敬徳	私立	伊西
33	龍谷	私立	佐賀
34	佐賀学園	私立	佐賀
35	北稜	私立	佐賀
36	早稲田佐賀	私立	唐松
37	東明館	私立	三神
(分析対象としたが分析対象期間中に統合となった学校)			
38	杵島商業 (2018年に白石と統合、白石高校として存続)	公立	杵藤
39	塩田工業 (2018年に嬉野と統合、嬉野高校として存続)	公立	杵藤
40	鹿島実業 (2018年に鹿島と統合、鹿島高校として存続)	公立	杵藤
41	伊万里商業 (2019年に伊万里農林と統合、伊万里実業として存続)	公立	伊西
42	伊万里商業 (2019年に伊万里農林と統合、伊万里実業として存続)	公立	伊西

付録 2. 秋 NHK 杯佐賀県高等学校野球大会の出場学校数

	全体	公立校	私立校
2012年	17	14	3
2013年	16	13	3
2014年	16	13	3
2015年	17	15	2
2016年	16	12	4
2017年	16	12	4
2018年	16	11	5
2019年	16	12	4
2020年	新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止		
2021年	16	11	5
2022年	16	11	5
2023年	16	11	5